

平成の時代に入ると日本の住宅様式に変化が出てきました。一つは洋間の台頭です。お洒落な洋風の内装、間仕切りのない広々とした設計が多くなりました。もう一つは高齢化社会に伴うバリアフリー化です。段差のない床仕様へのリフォームが増えてきたことです。

余談ですが、先日ある医師の方がこんなことを言っておられたのが印象的でした。「たとえ数センチの段差であれ、毎日の生活の中でこれがあるのとないのでは、足腰の機能の退化に大きな影響が出る」というのです。

素描

縁なし畳

岐阜県畳組合理事長 石河恒夫

いずれにしても新築の和室数は減少し、一間という間取りが多くなってきたのです。

その反面、畳の部屋は希少な空間と化し、できるだけ凝った畳にしたいという趣向が出てきたのです。縁のない畳、いわゆる「縁なし畳」です。畳縁を付けずに畳表を曲げこんで作る畳です。私の店でも、新築の和室の多くはこの縁なし畳の指しションがあり、藁草を定を頂いています。あえて畳を半帖にして縦横交互に敷きます。光の反射の関係で、見事な市松模様に見えるのです。

縁なし畳を「琉球畳」ね。

琉球畳は蘭草ではなく七島蘭という丈夫な草を織り込んだ琉球表を使いま

す。最近では中国産も出てきましたが、日本では大分県の国東半島で、ごく僅かしか収穫・製織されています。

また和紙を紙縫って作られた畳表にも人気があります。様々な色のバリエーションがあり、藁草を

その昔、畳縁は階級の位を表し、庶民は縁付きの畳を使えませんでした。時代は巡るもので